主人鍋島を想う

鍋島　淳子

鍋島が亡くなって丸六年経ちました 股間節骨折が引き金で帰らぬ人となりまして お坊さんのお話で 成仏するまで仏に導かれて 浄土を歩くのです とおっしゃったので 私も一緒に歩こうと 毎朝五時から六時の間に二十分位歩き続けて居ります。

主人の想い出を素直に作句して 渋柿誌に投句しましたら 六句取り上げて貰いました その内の五句です

初桜明けゆく空に瑞瑞し

春うれし半音上げて歌いけり

眼つむれば哲学の道花の頃

夫の忌や春満月でありしこと

春来れば亡夫に会いたき日暮れかな